



ろくめいかん

鹿鳴館は、何のために建てられたの



日本側に不利な条約を改正するためには、必要だと考えられた、外国人とつき合うための社交場だよ。

園遊会・^{ぶとうかい}舞踏会・音楽会・バザーなどが開かれた

1883年に完成した鹿鳴館は、二階建て・れんが造りの西洋風の建物です。ダンス室・ビリヤード室・客間・食堂・^{ふじんけしょうしつ}婦人化粧室・^{しんしつ}寝室・^{ふる}風呂など、40余りの部屋がありました。建築費は18万円（^{ゆうびん}当分の郵便はがきは^{せん}1銭）です。完成以来、毎日のように、国内・国外の外交官や、上流階級の人々が招かれ、園遊会・舞踏会・音楽会やバザー（^{じぜんいち}慈善市）が開かれました。

外国人とつき合う場として設けられた

明治政府は、^{えどばくふ}江戸幕府が外国と結んだ、日本側に不利な条約を、改正したがっていました。^{がいむきょう}外務卿（のち外務大臣）になった^{いのうえかおる}井上馨は、条約改正が成功するためには、外国人と仲良くつき合うことが必要だと考えました。そこで、まず、上流階級の人々を、ヨーロッパ風の風俗・習慣にさせるため、外国人とつき合う場として設けたのが、鹿鳴館だったのです。鹿鳴館によって、ヨーロッパ風の風俗・習慣が、日本の上流階級の間にも広まり、この時期を「鹿鳴館時代」といいます。

その後は、^{かぞくかいかん}華族会館や事務所として使われた

しかし、条約改正のための話し合いはうまくいかず、日本側に不利な条約改正案がつくられました。そのため、条約改正に反対する声が高まり、1887年に話し合いは中止され、井上馨は外務大臣をやめました。これによって、「鹿鳴館時代」は終わりました。鹿鳴館は1889年に第十五銀行に^{はら}払い下げられ、1933年まで、華族会館として使われました。その後は、^{にほんちやうへいほけんがいしゃ}日本徴兵保険会社に売られ、会社や銀行の事務所として使われたのち、1941年に取りこわされました。